

江差町立南が丘小学校



かけはし

【本年度の重点教育目標】

『豊かな心の育成 礼儀正しさ・思いやり・粘り強さ』

TEL0139-52-0524 FAX0139-52-5489

子どもは大人の背中を見て育つ

南が丘小学校長 安田 善紀

2学期も大きな事故もなく、無事に終わることができそうです。2学期を振り返ると、早々に発生したクマ騒動は、大きな驚きと対応の難しさで悩んだ案件でした。皆様のご理解とご協力で何とかやり過ごすことができほっとしています。その他にも、学習発表会や南小フェスティバル、多くのふるさと学習など子どもたちが学び・成長する機会が多かった2学期でした。

私事になるのですが、先日久しぶりに埼玉県に暮らす息子から連絡が来ました。近況報告を聞いていると、仕事先の方から玄関で靴を脱いだ際に綺麗に整えていることを褒められたそうです。そしてこの様に自然にできるようになったのは、親の姿を見ていたからかなと笑いながら話していました。

私は、「親の背中を見て子は育つ」ということわざを思い出しました。子どもは親の姿を見て自ずと学び育つ、という意味です。親子のしぐさや話し方などが似ているのは、まさに親の姿を見て子どもが学んでいる証です。

私が小学生の頃、親が書く担任宛の連絡帳や手紙の文面は必ず「いつもお世話になっております。」から始まりました。私自身が親となり我が子の連絡帳等を書く際も、必ず「いつもお世話になっております。」から書き始めました。「こう書くのが礼儀です。」などと一言も教えられたことはありません。親がそうする姿を自然と学んでいたのだと思います。他にも靴を脱ぐ時は、きちんと揃える。この習慣も、常に玄関の履物をきちんと揃えていた親の姿を見て学んだことの一つです。私は息子に「靴をきちんと揃えなさい。」と言ったことは、ほとんどありません。我が子も親である私の姿を見て学んでいたのでしょうか。

子どもを育て、しつけるために私たち大人は毎日たくさんの言葉を子供たちに投げかけています。言うことを聞かないと厳しく言葉を荒らげることもあるかと思います。もちろん、言葉で理屈とともに教えなくてはならないこともあります。しかし、言葉の力以上に影響力があるのは、子どもが日々目にしている大人の行動なのかもしれません。今の時代、画像・映像等の視覚情報が子どもたちの周りに溢れています。そして、そこに写る大人の姿は必ずしも子どもたちの健全な成長に望ましいものばかりではありません。だからこそ、身近な大人である我々親や教員が、人として正しい姿、行動を見せていかなくてはならないと思います。

子どもたちは見えています。そのことを肝に銘じ、学校生活を通して子どもたちが正しく学び成長できるように、全教職員でしっかりと背中を見せていきます。そして、学校でも家庭でも、地域でも同じ背中を見せるができるように、一層の連携を図って参りたいと思います。引き続き本校へのご理解・ご協力をよろしくお願ひいたします。

創意工夫を凝らして ～南小フェスティバル～



3年生「紙飛行機とばし」のコーナーでは、新記録が次々と塗り替えられ、スタッフ（子ども＆先生）が働きどおりでした。



コーナー紹介で、来店をよびかけました。

かけがえのない命～「人の誕生」の授業～

5年生は、町保健師の藤ハさんをお招きし、人の誕生について学びました。赤ちゃんと同じくらいの重さの人形を抱いて、命を実感していました。子どもたちはお話を聞いて「赤ちゃんを産むのは大変だと思った」、「赤ちゃんはすごく重いからお母さんはごくくなあと思った」、「おむつをはかせるのは大変だと思った」などの感想をもっていました。



コーナー前でお客さんにルールを説明しています。



おむつの替え方を体験しています。



全校児童の前でしっかりと作文を発表できました。

全校朝会で作文発表

毎月の全校朝会では、各学年から代表者が作文を発表する場面があります。作文を聞いている子どもたちは、友達の考え方や感じ方に共感している様子です。発表する子どもたちはやや緊張気味ですが、一生懸命しっかりと発表しようという気持ちが伝わってきました。